

公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 部分公開
	<input type="checkbox"/> 非公開	

浜松市基地対策協議会代表委員会会議録

- 1 開催日時 2025年7月25日（金）午後2時00分から午後3時30分まで
- 2 開催場所 浜松市役所本館8階 全員協議会室
- 3 出席状況 代表委員等 17人（会長含む）
- | | | |
|---------------|-------|-------------|
| 中野 祐介（会長） | 松本 康夫 | 平野 岳子 |
| 岩田 邦泰 | 齋藤 和志 | 井田 博康 |
| 小黒 啓子 | 倉田 清一 | 斉藤 晴明 |
| 鈴木 裕之 | 鈴木 恵 | 関 イチロー |
| 辻村 公子 | 花井 和夫 | 花井 洋介 |
| 工藤 文武（企画調整部長） | | 水谷 供子（市民部長） |

南関東防衛局 9人

企画部	高木次長
施設対策計画課	恩田課長
周辺環境整備課	徳留課長
防音対策課	渡邊課長
住宅防音第1課	住宅防音企画室 須藤室長
住宅防音第2課	刑部課長
管理部 施設管理課	御子柴課長
企画部 地方調整課 環境対策室	新井室長
浜松防衛事務所	高橋所長

航空自衛隊浜松基地 第1航空団司令部 3人

監理部	山中監理部長
渉外室	安河内室長
	河鍋基地対策班長

市（関係課長等） 8人

市民部	創造都市・文化振興課	加藤担当課長
環境部	環境保全課	佐藤課長
土木部	道路企画課	五十嵐課長補佐
	中央土木整備事務所	小出所長
消防局	消防総務課	藤田課長
	警防課	岡田課長
学校教育部	教育総務課	河島担当課長
	教育施設課	鈴木課長

事務局（市民部 市民生活課） 7人

藤田課長
本多市民安全グループ長

松本課長補佐
市民安全グループ員(小池、伊藤、窪田、林)

- 4 傍聴者 一般7人 報道機関2社(中日新聞、静岡新聞)
- 5 議事内容 (1) 2024(令和6)年度 基地周辺整備事業(実績)について
(2) 2025(令和7)年度 基地周辺整備事業(予定)について
(3) 第41教育飛行隊移転後の報告について

6 会議録作成者 市民生活課市民安全グループ 林

7 記録の方法 全部記録
録音の有無 有

8 会議記録

代表委員、他の発言は次のとおり

会長(市長) 開会挨拶

会長(市長) はじめに議題(1)の「2024年度 基地周辺整備事業(実績)について」、事務局から説明してください。

事務局 議題(1)「2024年度 基地周辺整備事業(実績)について」の概要説明

会長(市長) ただ今の説明につきまして、ご質問等ございましたらお願いします。

小黒委員 8条関係の補助率の7/10とありますが、これの算定がこれまでもずっとこういう状況だったのか、何で決められてこの補助率になっているのか、今後の見通しについても教えてほしいです。

南関東防衛局 民生安定施設の道路の補助率につきましては7/10となっております、これは「民生安定施設の助成に係る補助の割合」という事務次官から出している通達に基づき決まっています。

今後の見通しとして、国の予算が厳しいところではありますが、全国からこういった道路事業の要望がございますので、地元の皆様の要望を我々も本省に伝え、できる限り補助率が上がるよう努めていきたいと思っております。

小黒委員 ありがとうございます。基地の周辺の道路工事についてはかなり進んできているところ、それからまだまだ色々な関係でやってほしいというところ

ころは要望があがってくると思います。一応 7/10 と決められているということですが、しっかり要望に応えられるような国の予算の配分のようなものにつきましても防衛費というのは相当上がっておりますので、内部でも検討してほしいという要望だけ申し上げます。

会長（市長） 他にいかがでしょうか。

（質問・意見なし）

特にないようですので、議題（1）「2024 年度 基地周辺整備事業（実績）について」は、ご了承いただいたものとさせていただきます。

それでは次に、議題（2）「2025 年度 基地周辺整備事業（予定）について」、事務局から説明して下さい。

事務局 議題（2）「2025 年度 基地周辺整備事業（予定）について」の概要説明

会長（市長） ただ今の説明につきまして、ご質問等ございましたらお願いします。

斉藤委員 C の一番上の消防ポンプ自動車購入事業で前年度は事業費 26,730,000 円に対して交付金が 24,615,000 円でしたけども、令和 7 年度はかなり市のほうが額的に多いですが、この辺の補助の関係といいますか、これがどうなっているのか教えていただきたいです。

事務局 今年度の予定については、一次交付と二次交付で交付金額が決定されますが、現在一次交付という部分を入れていることになりますので、今後、交付金額がもう少し増えてくると思います。金額については未定なのでこの形で報告させていただきます。

斉藤委員 そうすると、たしかに総額は 7 年度多いけども、非常に率としてはかなり違うので、ほぼ令和 6 年度と同じくらいの率になるのか、その辺の率の違いというのは、かなり違いがあると思うのですが、最終的には前年度と同じくらいの交付金になるのか、その辺はどうですか。

事務局 9 条の交付金の金額が一定の算出のもと出てくるものですから、例年概ね同じような金額になるという見込みで動いております。

1 次交付、2 次交付の最終の結果は、出てきたところでないとはっきりしないところがありますが、見込みとしては、前年度と同様のトータルの交付金にはなるという見込みでございます。

斉藤委員 そういうと率の問題だけど、額である程度なのか。前年はかなり率としては交付金が多いですね。

事務局 こちらの方は他の補助金のものと少し性質が異なっておりまして、それぞれ事業費に対しての割合というところではなく全体的な交付金の金額というのが出てくる場所であって、それを市のどのような事業に活用していくかというところを考えて動いていますので、率については一定にならないところがあります。

斉藤委員 率よりも額の問題ということですね。その配分はこういう形になるということですね、分かりました。

会長（市長） 他にいかがでしょうか。

倉田委員 Bの法8条関係で湖東和合線の湖東工区と西山工区があります。地元の人は大変期待している道路整備でありまして、まずは予算を確保していただいている南関東防衛局、また、道路整備を進めていただいている南土木整備事務所に感謝を申し上げます。4番の西山工区であります、なかなか進んでいるということは分かっていますが、少しずつ進んでいるという状況でありまして、令和7年度は用地補償一式ということでございます。内容、概要で結構ですけども、教えていただければと思いますし、基地側の用地を協力してもらってフェンスを移設していく時期はいつ頃を予定しているのか確認の意味で教えていただきたいと思います。

中央土木整備事務所 令和7年度の補償の場所ですが、合同送信所というところがございまして、基地南側の道路のさらに南側にありますが、その場所の用地の割譲に向けて手続きを進めていきたいと考えています。また、基地側のフェンスの補償工事は令和8年度以降進めていく予定です。

倉田委員 ありがとうございました。7年度の場所も確認できました。地元としては、まず道路整備が本格的に進んでいくには、基地側の用地を割譲していただいてフェンスが下がらないと中々道路工事が一気に進んでいくという状況にありませんので、南関東防衛局、浜松基地としっかりと協議していただいて、できるだけ早期に予算の確保もしていただく中で事業の進捗をはかっていただきたい、要望として申し上げます。以上です。

会長（市長） 他にいかがでしょうか。

(質問・意見なし)

それでは、他にご質問・ご意見等ないようですので、議題(2)については、ご了承いただいたものとさせていただきます。

続きまして、議題(3)「第41教育飛行隊移転後の報告について」、南関東防衛局から現状の報告をお願いします。

南関東防衛局

議題(3)「第41教育飛行隊移転後の報告について」の概要説明

会長(市長)

それでは、ただいまの報告につきましてご質問・ご意見がありましたらよろしくお願いたします。

小黒委員

会議資料4頁です。その前のページ年度と1から12月という分けを両方やっただいてありがとうございます。

その中で令和5年と令和6年を比べれば1,700回程度回数は減っているという数字が出てきますが、T-400が配備される以前と比べますと、相当回数が増えてきています。この飛行回数が増えることによる騒音の被害の増加、そして皆様から寄せられる苦情というのは大変たくさん入るわけですが、この基地協議会があるたびにこの内容について色々シミュレーションをやったり違うところで訓練やったりということでこの回数を減らしますというお話を受けていますが、今回について多少減りましたけども、このところはもっと努力をする必要があると思うのですが、お考え聞かせていただけますでしょうか。

浜松基地

これまで仰られていたとおり、他の飛行場における離着陸訓練やシミュレーターを活用することで浜松基地における離着陸回数を低減するよう努力しています。今後、引き続き同じ方法による低減に努めていきたいと考えています。

小黒委員

昨年も同じ答えでその前も同じ答えで、そしたら管制回数のところ、令和6年は28,684回となっております。これをどの程度低減していくのか数字を示してほしいのですが、いかがですか。

浜松基地

今後どのように低減できるのか、どこまで低減できるのかについては、現状すぐお答えすることが難しいですが、今年度以降も引き続き今の努力を継続して周辺住民への影響を軽減できるよう進めていきたいと考えています。

- 小黒委員 同じ答えが続きまして、T-400が入るときに3割以上これまでと違う状況になってくる、大きな騒音も出るし、飛行回数も増えるということを知りました。しかし、実際に入ってきていて、その後、やはり色々な形で迷惑がかからないように頑張りたいという話を繰り返ししていますが、一向に、例えば、この28,684回、それをどう見ていくのか、基地は回数についてどの程度の考えを持ってらっしゃるのか、市民がどう感じるかというのをどういうふうに考えていらっしゃいますか。
- 浜松基地 航空自衛隊の任務を遂行するために一定数の操縦者を養成する必要がありますので、そのために計画的に学生を養成しているのですが、その点についてはご理解いただきたいです。
- 小黒委員 ここは同じ話の繰り返しのようことになります。会議資料5頁に騒音の実際に測定をした状況が出されております。第一種区域の中の萩丘小学校と農村環境改善センターではW値について、農村環境改善センターではW値が移動前より大きくなっている。当然萩丘小学校でもそうなっているわけですね。ここは第一種の区域の中ですので、その下の赤い枠で囲ってあるように、W値では75、Ldenでは62という、こういうものが出ているわけですが、実際に農村環境改善センターで75を超えていると、ここの音の関係ですけれども、これについては、離着陸の回数が減れば音の回数も減ってくるという状況はあるかもしれませんが、ここの実際に出ている数字について基地の方はどういう印象をもって、どうお考えなのかお尋ねします。
- 浜松基地 測定の値が定められていて、それを測定されているのは理解しております。浜松基地としましては、飛行に関する一定の規定、決められた航路をしっかりと守って飛行することで、周辺住民への影響を軽減できると考えています。一定の規定を守って、しっかりと飛んで、影響を軽減できるように考えております。
- 小黒委員 騒音の関係はもちろんあるわけですが、前回の基地協議会の中でも自民党からも子どもたちの通学の関係で早朝ですね、朝7時から飛ぶ、大きい音が出ることについて非常に心配されるお声が出ました。もちろんそうだと思います。早朝の時間帯の飛行についてそういう声もありまして、色々な事故があったりしてその後のこともありますけど、時間の割り振りですね、どの時間帯からどの時間帯にどういうふうに飛行の訓練をしていくのか、そういうスケジュールはどこで決めているのでしょうか。

浜松基地 浜松基地では、先程も申しましたとおり、一定数の操縦者を養成する必要がありまして、その訓練を安全確保しつつ行っています。その各必要となる飛行時間帯や訓練空域をそれぞれ各航空機に指定しています。飛行訓練を日中にどこかの時間帯に集中して行う場合は飛行場周辺や訓練空域が混雑して必要な教育訓練を安全管理しながら行うことが困難であるため、朝の時間帯も含めて訓練を行わせて頂いています。

小黒委員 カリキュラムそのものは浜松基地で予定が組めるということでしょうか。

浜松基地 訓練予定は浜松基地で決めています。

小黒委員 そうしましたら早朝の時間ですね、本当に 7 時から色々な各時間帯で訓練する必要があるというお話今出ました。早朝の時間は様々な危険を伴うということをご承知だと思いますが、そこについての配慮はできないものでしょうか。

浜松基地 浜松基地としましては、安全確保のために必要な航空機への飛行時間帯、訓練空域を指定しまして、それをもって安全を確保するようにしています。

小黒委員 すみません、しっかり理解できなくて申し訳ないですけども、朝 7 時から飛行しなくてはいけない、それは他の時間帯に置き換えられないので、朝 7 時からどうしても訓練が必要、そういうことでしょうか？

浜松基地 周辺住民に騒音を配慮して飛行計画をしているが、安全確保のための時間と区域の指定をした時に朝の時間帯も使わせてもらっているという状況です。

小黒委員 すみません、それでは朝 7 時からの早朝の飛行についての騒音に係る住民への危険への対応について基地はどう考えていますか。

浜松基地 まずは、航空機の確実な点検、操縦者による確実な運航をしっかり守って、周辺住民に不安を与えないようにしていきたいと考えています。

小黒委員 長くなって申し訳ないですけど、今のお話は、あとから T-4 墜落の事故のこともお尋ねしたいと思っておりますが、子供達の通園、登校の時間帯の早朝の時間に飛行することについての影響を、基地の方は安全に運行するので大丈夫というお話ですけども、こちらで防ぎようがない状況も起こり

得るわけですね。その辺もう一度しっかり考えていただきたいということを繰り返しお願いします。

それから、会議資料 7 頁です。令和 5 年度と令和 6 年度の 1 日あたりの平均の騒音発生回数が掲載されております。萩丘小学校は令和 5 年度 27,389 回、令和 6 年度は 28,419 回で 1,100 回程度増えていますが、一番上の小池会館も少し増えておりますけども、どうしても着陸の関係、風向きによっては離陸かもしれませんけども、増えてきています。回数についてはどういう印象でしょうか。

浜松基地

通常、方向が滑走路の方向によって騒音の値については変化していると予期しているのですが、航空機の音については、天候、風向きによって航空機が上がる方向が変わってきます。天候の影響により変わったものと思われれます。

小黒委員

その前のページの萩丘小学校を見ていただければ分かりますが、15,000 回程度であったものが、T-400 が配備されて、令和 5 年度には 27,000、令和 6 年度は 28,000 と、このところ先程から繰り返しお話をしています。飛行回数を減らす、騒音を減らす、そのために色々な努力して下さるといってお話でしたが、減っていないという実態があるわけで、本当に努力をしているのか少し疑問になりますがどうでしょうか。

南関東防衛局

萩丘小学校に設置している航空機騒音の測定装置については、令和 5 年 4 月に測定器の調整を行ったことにより、離陸前のエンジンテストや離陸滑走に伴う騒音をより顕著に検知したことにより相当程度増えたものと考えていますが、Lden 値は同程度で推移しています。引き続き当飛行場の騒音状況の把握に努めていきたいと考えております。

小黒委員

同じ条件のもとで装置を変えたことで色々な音を拾ってしまう、前回もその話をいただきました。そのために回数が増えて計上されてくるということでしたが、実際、重要な統計として比較する場合、以前とその後を比べる、それが出来なくなってしまう、そういうことは大丈夫なのでしょうか。比較検討についてどういう基準で、Lden 値だけの話になっているのかどうか、そこはどうお考えですか。

南関東防衛局

騒音状況の測定の継続性を考慮し、今でも W 値での計測を行っています。

小黒委員

市民の思いとか、そこで暮らす人々の声とか、そういうものをどこまで敏感に感じているのか非常に疑問です。そこに暮らしている浜松市民の思い

をしっかり受け取っていただきたいということを重ねてお願いします。受け取っていただきたいというのは、飛行回数も極力減らす、そして、そこに関わる騒音の被害が少なくなるわけですから、ぜひ、そのところを一番に考えていただきたいと思います。

関連すると思いますが、防音工事のお話をここで出してよろしいですか。

会長（市長） 結構です。続けていただければと思います。

小黒委員 実際には令和6年と7年で3億くらいの減額ということですが。前回の基地協議会の中でも対象とされる方の約9割の工事が終わっている、そういう状況からこういう数字になっているのかもしれませんが。そこで教えていただきたいのは、実際にこの工事の対象になるところです。第一種区域が指定された昭和56年までに建設された住宅、その後、そこに多くの方がお住いになり、住宅も増えていると思いますが、基本的には44年前程になりますが、この告示のときにそこにお住まいになっていた方たちの工事が約9割終わっていて、あと残りこの予算で済ませますという考え方でいいかどうかお尋ねします。

南関東防衛局 第一種区域を指定する際、現に所在する住宅に対して防音工事を行うという事項があり、指定の際に建てられていたところに対して工事を行っています。

小黒委員 ありがとうございます。前回の話の中で、対象となる世帯がどの程度あるかということで、その時点、平成24年に大きく第一種区域が小さくなっていますので、動いてきていますけども、12,000世帯の対象世帯があって防音工事を実施している世帯は令和5年までに11,000世帯ですので9割完了したと会議録にも書いてあります。これは今のお話ですと、その後、そこに住まわれている皆様には防音工事の対象になっていないという判断をするわけですが、実際に音を聞いていたりそこで暮らしていたり、そこで暮らしをしているという状況は変わり無いわけで、対象とする内容を改めていくというお考えはあるのでしょうか。

南関東防衛局 いわゆる告示後住宅の補助について地元の皆様から根強い要望があるのは承知しています。今後、第一種区域の見直しにあたりましては、指定再告示方式により新たな告示日時点までに建設された住宅をすべて対象とする考えでございます。

小黒委員 そうすると世帯数でいうとどれくらい増えるのでしょうか？

南関東防衛局

今は把握しておりません。

小黒委員

今お話いただいたのは今と少し状況が変わるということですのでいいですね。新たにというところもう少し丁寧にお話してください。

南関東防衛局

浜松飛行場につきましては、令和3年10月に第41教育飛行隊の移動が完了していますが、移動後の測定結果はLden、W値ともに移動前と同程度であり、現行の第一種区域と騒音状況が大きく乖離している状況ではなく、引き続き騒音状況の把握が必要であると考えております。

いずれにしましても、引き続き当飛行場の騒音状況の把握に努め、騒音の実態等踏まえ、適切に対応してまいりたいと考えています。

小黒委員

地域から根強い要望があるというお言葉が出ました。そのあたりのところもう一度言ってくれませんか。今のお話は了解しております。

南関東防衛局

今後、第一種区域の見直しがあった場合には、告示後住宅も対象になることもあり得るということです。

小黒委員

よく分かりました。あり得ないということですね。仮にあった場合というのは、仮にあるかどうか分からない、ということは、その後のことについては検討してくださるということですか。

南関東防衛局

引き続き騒音状況の把握に努めていきます。

小黒委員

Lden値もW値も横ばいで動いてないということが前置きにありますので、そこのところ期待はできないと思いますが、実際に後からそこで暮らしてみても、お子さんが生まれて、とてもここで暮らせないということで、自分で作った家を離れて、また外へ移り変わらなければならないという悲惨な状況を聞いているわけです。同じ騒音の下で暮らしている人たちに甲乙つけるといって、そこのところについてはもう一度検討をお願いしたいと思えます。

会長（市長）

他に、ご質問・ご意見はありますか。

松本委員

先程、小黒議員からも質問がありましたが、飛行回数の問題です。増加がずっと続いています。特に早朝・夜間に飛んでいるというのも地域住民の方の生活環境とか騒音安全面に対して確かに不安の声があると思えますが、

実際には、非常にスクランブルの回数が増えているとか、またそういう意味においては、飛行隊の訓練そのものが非常に重要であるとは深く思っています。そういうところではありますが、逆に、飛行隊の皆様の安全確保に関する教育とか新しい取り組みとかあれば一つ教えていただきたいです。

浜松基地 操縦者への教育につきましては、先日の事故も含めて考えうる限りの状況を考えまして、それに基づく教育、安全を確保するための操縦教育を行っております。

松本委員 それだけですか。

浜松基地 先日の事故を含めて、小さなトラブル等もありますが、それを機会として、大きな事故に発展させないような努力を常に続けているという状況でございます。

松本委員 具体的な教育はないのでしょうか。今努めていることは分かったのですが、何を努めているのかよく分かりません。

浜松基地 事象がありましたら、事象について操縦者で共有、同じ状況をシミュレーターで模擬的に体験させるというような教育を行っております。

松本委員 今 T-4 の話も出ましたが、先週は我が会派で視察に行きました。教育訓練の状況を見て、20 代の若者が長いスパンで教育を受けていて頑張っている姿を見て感謝しているところですが、改めて、安全確保の意味でもしっかりと訓練生の指導をしていただきたいです。

また、第一種防音区域の見直しがされたならば、という話がありましたが、実際に回数は増えています。音では変わっていないという話ですが、回数についても配慮いただきたいです。第一種防音区域の見直しを検討してほしいです。

南関東防衛局 先ほどと同様の回答になっていますが、浜松飛行場においては、第 41 教育飛行隊の移動が完了していますが、移動後の測定結果によると Lden、W 値ともに移動前と同程度であり、現行の第一種区域と状況が大きく乖離している状況ではないです。引き続き騒音状況の把握が必要であると思っております。

松本委員 音の話ばかりですが、今私が言ったのは、回数が増えたということ。回数についてもやはり配慮していただきたいところもあるので、それをど

ういった形で第一種区域を配慮していくか、また検討していただきたいと思っています。

会長（市長） 他にご質問・ご意見はありますか。

関委員 会議資料 7 頁を見ると、令和 4 年度の萩丘小学校の年間の騒音発生回数 17,023 回、令和 5 年になると 27,000 回、令和 6 年も 28,000 回でかなり極端に数字が上がっていますが、これは何があったのでしょうか。

南関東防衛局 萩丘小学校に設置している航空機騒音での測定装置においては、令和 5 年 4 月当該測定装置の調整を行ったことによりまして、離陸前のエンジンテストや離陸滑走に伴う騒音を顕著に検知したことによるものであり、相当程度騒音発生回数が増加したものと考えられます。しかしながら、Lden 値は同程度で推移しています。

関委員 今のお話ですと、Lden 値が変わっていないから問題ないという認識なのでしょうか？

南関東防衛局 引き続き浜松飛行場の騒音状況の把握に努めていきたいです。

関委員 努めていただくのも大事ですけども、少なくとも騒音発生回数という捉え方をしているということで、1 万回以上多くなっていること自体が、住んでいる人達にとって騒音というものが 1 万回以上増えるということです。日で割るとかなりの回数不安な思いをされる、そういったものの対策、そのものは何かお考えなののでしょうか？

南関東防衛局 機器調整を行ったことにより、騒音発生回数をより顕著に検知したというところで、騒音測定装置が検知したか、していないかというところでございまして、騒音の状況についてはあまり変わっていないと思います。

関委員 令和 4 年よりも前のデータというものがかなりアバウトというかより感度の悪い数字があがっていたという風に解釈したらよろしいでしょうか。

南関東防衛局 離陸前のエンジンテスト等の騒音については、それまでの騒音測定装置では検知していないということになります。

関委員 数字の説明だとそういうことですけど、状況は変わってないということですよ。やはり小学校で他と比べても発生回数が多いということは、学校

で学んでいらっしゃる生徒達にとっては授業に差し障ることがあるのではないかと考えていますが、その辺の対策は考えているのでしょうか。

南関東防衛局 菖丘小学校では過去に防音工事を実施しており、現在は空調費等の維持費に関して補助しています。

関委員 結構です。

会長（市長） 他にいかがでしょうか。

小黒委員 先程から非常に気になっているのは、Lden 値も W 値も横並びということです。数字を出す時に平均値なので土日に飛ばないと薄まってしまう、それが本当に T-400 配備後も横並びとはとても考えられず、実際には 35%増え続けています。そういう中で市民が大変な思いしている、苦勞をしている、そのところを汲み取っていただきたい。先程から同じ答えを繰り返しています。昨年もその前も同じです。やはり進まない、シミュレーターを使う、他で飛行訓練する、進まない、早朝についても今その時間で訓練しないといけないということもあるという、大変悲しいお答えを聞くものですから、そこで暮らす市民、そしてそこで赤ちゃんが生まれている、子どもたちも学校へ通う時間、一回想像していただいて、本当に必要なところ、訓練も必要だと思いますが、実際には墜落するという大変なことも起きているわけですので、もう一度早朝の飛行の時間、飛行回数、騒音発生回数を減らしていくのか、改めて考えていただきたいというようにきちんと考えていただきたいということだけ強く要望します。

会長（市長） 他に、ご質問・ご意見はありますか。

（質問・意見なし）

それでは、特段のご質問・ご意見等ないようでございますので、議題（3）についてはご了承いただいたということで、本日の議題は以上となりますが、この際ですので、代表委員の皆様から他に何かご質問・ご意見等ございましたらお願いします。

小黒委員 5月14日にT-4が墜落しました。本当に若い29歳、31歳という命が失われてしまって、とても残念だと思います。この事故を受け、基地の方へお願い、要請をしました。この要請の中で、原因をしっかりと市民に報告してほしいという項目もありましたが、今回の墜落に関する原因を教えていた

だきたいです。

南関東防衛局 本年5月14日に発生しました、愛知県犬山市の航空自衛隊T-4練習機の墜落の原因究明というところで、飛行見合わせを解除しておりますので、それについてご不安があるというところでお聞きになっていると思います。現在、事故調査委員会を立ち上げております。事故調査の結果公表については、現在、申し上げる段階ではございません。事故原因や再発防止策について、国民の皆様に丁寧にご説明することが重要と考えていますので、今後適切に対応していきます。

小黒委員 事故が起きまして、5月16日に防衛大臣が記者会見を行いました。その中でフライトレコーダー、ボイスレコーダーの搭載がないと、そのところの機種については、急いでそれをつけるように、ということです。T-4が浜松基地には40機あるというお話を伺いまして、この40機の状況ですね、未搭載のものがどの程度あるのか、全体でいうと197機中約60機は未搭載という話がありましたので、不安になりましたが、浜松基地の状況はいかがでしょうか。

南関東防衛局 T4ですが、フライトデータレコーダーの搭載の件ということで、今回墜落した機体には、ご存知だと思いますが、フライトデータレコーダー搭載されていませんでした。航空自衛隊が保有するT-4練習機約200機くらいです。その内、フライトデータレコーダーを搭載されていない機体は当該事故機を除いて約60機です。今回の事故を踏まえまして、フライトデータレコーダー搭載改修、フライトデータレコーダーの搭載機の機種変更を現在加速させております。また、こうした改修や更新にはどうしても相当程度の時間を要することから、暫定的な措置として、その他の記録装置により、飛行状況等記録可能な体制を確保することといった、対応策を並行して進めているところでございます。

小黒委員 浜松の航空自衛隊基地にある40機のT-4はフライトレコーダーなどの搭載がどういう状況かというお尋ねをしております。

浜松基地 機体につきましては全体で200機、未搭載が60機と申したとおりであります。その中でご質問された、個々の基地の状況については、運用に差し支えがあるため回答を控えさせていただきます。

小黒委員 どういう差し障りがあるのか分かりませんが、この浜松の空を飛んでいるT-4がどういう状況になっているのか市民が知るのは当たり前ではない

ですか。40機あるというお話の中で40機ついてないということなのか、いや半分はできていますとか、防衛大臣は急いで早期に搭載をはかるということを抑っているのか、それに対する対応もどういう状況なのか。

浜松基地 T-4は安全を確保して飛行しています。フライトデータレコーダーとは飛行中に起こった事象を記録するものであり、これと安全に飛行する機能とは別であると認識しています。フライトデータレコーダーがないからといって安全な飛行できないというわけではありません。ついていなくても安全な飛行は実施しているという状況であります。

小黒委員 事故が起きたので、その事故の原因が何か分かるのは、フライトレコーダー、ボイスレコーダーなどがついていれば分かったであろうことから、防衛大臣も急いで搭載するようという話が出ているのだと思います。だから今のお答えはどうなのかなと思います。実際に墜落した機種は1989年から運用しておりまして、37年、40年使用している機種になります。浜松のT-4の40機はいつ頃作られたものなのかというところもお答えしていただけないでしょうか。

浜松基地 機体については、全てが40年経っているわけではありません。順次飛行機はつくられておりますので、年度について、個々の状況については、今すぐに回答というのは困難な状況です。

小黒委員 分かりました。それでは40機がいつ作られたものなのか。全て、後で結構ですから詳細について報告をお願いします。次に、「新田原基地所属 T-4 練習機の墜落について」初報から第6報まで出されております。第6報の中で T-4 練習機について特別な点検による機体の健全性の確認をしました。そして、T-4 の操縦者に対する安全管理や緊急時の対応等についての教育・訓練をしました。そして、6月13日以降、所要の対策を終了した機体及び操縦士から飛行の見合わせを解除していくとあって、実際2か月経って、また同じように動き出したのですよね。個々の中で特別な点検というところ、そこから先ほどもありました、操縦者に対する安全管理、緊急時の対応等についての教育・訓練、具体的にどういうことをされたのかお尋ねします。

南関東防衛局 5月14日に発生しました、航空自衛隊 T-4 練習機の墜落についてですが、事故原因は現在調査中ということで、考え得る全ての要因を踏まえ特別な点検により機体の健全性を確認すること。特別な点検の具体的な内容につきましては、エンジン系統や操縦系統をはじめとした航空機が飛行する

ために必要となる全ての箇所、具体的には燃料および潤滑油の漏洩の有無の確認、エンジン内部やエンジン内の金属部品を探知する装置等操縦桿から各翼舵面につながる全てのケーブル、舵面を動かす各油圧装置、エンジン試運転による作動点検と出力確認、各計器の数値等の最終確認、といった内容の点検・整備を行った上で、それらが正常に作動するかどうかを確認するための試運転を行いました。この点検は、平素に行っている整備と比べ多くの人員や時間を割いており、例えば、通常であれば外観や目視のみでしていた項目について、内部までしっかりと確認するなどしました。なお、教育・訓練の具体的内容については、先ほど申したとおり地上における座学やシミュレーターを用いて安全管理や緊急時の対応等について教育・訓練を実施しています。

小黒委員 かなり細かいところまですべて点検していただいたということになると
思います。お話の中で外観などは目視で日常的に行っているが、特別な点検
は今回の事故を受けて行ったものと理解します。この点検は、浜松基地では
どの程度の間隔で特別な点検、エンジン周りや油とかを、例えば1ヶ月に1
回はしますとか、全くしていなかったのか、そこはどうか。

浜松基地 点検の頻度は、平素行うべき点検と部位毎に行う点検とありますが、平素
以上の点検については、各個別にエンジンや各舵面は各個別に何時間、どの
くらいの期間で点検するというようなことが規定されておりまして、それ
に基づいて定期的に点検をしっかりと行っているという状況でございます。

小黒委員 どのくらいの頻度で行うのか、お話いただけませんでした。きっちり点
検していて安心してもよい、ということでもいいですね。

関連して、航空機からの落下物について、公表は半年に1度です。リベッ
トみたいなものが落ちているというようなことが後から報告がくるわけ
ですが、今回こういった事故があったということで、皆非常にデリケートとな
っている中で、飛行の中で帰ってきて、リベットが一つないということが分
かったらその時点で市に報告してもらえないのでしょうか。

浜松基地 もちろん周辺住民の皆様の安全が第一と考えておりますので、皆
さんの生活に支障を与えるような重大な影響を与えるようなものがありま
したら、すぐに共有したいと考えています。

小黒委員 もう少し具体的にお願いします。

- 浜松基地 落下物等があるかもしれないということが判明した時に、それが住民の皆様に影響を与えるものなら速やかに報告したいと考えております。
- 小黒委員 落下物があった時に住民の皆様に影響を与える場合はすぐ報告する、それは当然のことです。リベット1つが落ちて何も事故が発生しなかった、だから半年でまとめて報告すればよいというのはちょっと、やはり何か見つかったときにはこうだったという報告がほしいとお願いしているのですが、市民の皆様に影響がない場合は今まで通りということでしょうか。
- 浜松基地 落ちた可能性があるものを十分調べまして、そのうえで影響を考えて報告していきたいと思います。
- 小黒委員 基地で情報を掴んだらその都度市へ報告していただきたいということを強く要望します。
- 新田原基地の訴訟問題で、25年の8月には、飛行の差し止めまではいきませんでした。一人ひとり、訴えた方に損害賠償をするということになり、地裁から高裁にいった金額が増えました。飛行の差し止めについての上告は受けてもらえなかったということで確定しました。
- 飛んでいる飛行機も状況も違う、というお話を言いたいかもしれませんが、やはり浜松の市街地の中で訓練が行われています。訓練です。超ベテランの方達ではない。今回の事故は、ベテランの操縦士でさえ、そういう事故が起きてしまったということがあるわけですので、くれぐれもそこに暮らす人の話をよく聞いていただくこと、そして何かあったときは速やかに市に対策をとった連絡をすること。あらゆることを色々な角度からしていただきたいと思います。
- 最後の質問ですが、防衛省から令和6年度の発注予定業務ということでホームページにどこの基地でどういう業務をしますということが具体的に出てきているのかもしれませんが。浜松基地で施設の最適化総合設計に係る技術協力業務ということで、実際には事業期間10年程度で500億以上700億未満の業務をこれから進める方向であることを見つけました。これについて基地ではどういう工事をされるのか、おおよその概況が分かれば教えてほしいです。
- 南関東防衛局 防衛局の発注についてですが、おそらく担当が来ておりません。そのため、今ご回答できません。申し訳ございません。
- 会長（市長） 後程、情報提供いただければと思います。

- 小黒委員 それで結構です。
- 会長（市長） 他にいかがでしょうか。
- 松本委員 来年度予算に関して、防衛費が年々増額されていますが、地元住民の理解を得るといところで、基地周辺の費用を増額されていくと思っておりますが、令和6年、7年はほぼ補助金額、交付金額が変わらないとのことですが、令和8年度はどういう見通しなのかお答えいただきたいです。
- 南関東防衛局 仰るとおり、防衛費はトータルでは近年増額されています。これは、装備関係への充当がメインでした。なかなか補助金に、少なくともこれまでは、トータルの合計の割合ほどには伸びていないということではあります。そういった声はよく聞きますので、委員の皆様からご要望があったということではしっかりと承りたいです。
- 松本委員 色々要望があると思いますが、ぜひ配慮していただきたいです。
小学校、中学校の体育館について、考え方を確認したいです。防衛省の令和6年度の防衛白書の中に国民保護法に基づく特定臨時避難施設学校体育館等の活用について示されているが、現行制度については、第一種防音区域にある体育館については、交付金の対象から除外されていると思っておりますが、避難所として必要な空調、防音装備を進めていく制度的な矛盾があると思っております。防衛省の交付金の対象になるのでしょうか。
- 南関東防衛局 いわゆる9条交付金であれば、環境整備法施行令第14条第1項第4号で学校設備が教育文化施設にあたるので、避難設備につきましても、特定防衛施設周辺整備調整交付金の対象となりますので、対応措置ができます。具体的な措置については、市を通してご相談いただければと思います。
- 松本委員 今、文科省の学校の空調の可能性調査をしていますが、防衛省の関係の交付金を活用できるという話だったかと思いますが、その辺を整理して文科省の制度と防衛省で言われている交付金を整理したうえで、特に萩丘小学校は、先程言われたとおり、第一種区域の中で非常に音のうるさい所になるので、そういう所の体育館の防音および空調の活用に使えればなという形で質問させていただきました。
もう一点、市にお尋ねしますが、和泉会館における、浜松市で初めてだと思いますが、8条予算を活用して公民館の改修をすると聞いていますが、現時点での進捗状況や地元からの要望・意見についてお話願えればと思います。

創造都市・文化
振興課

ご質問のありました、和泉会館の改修の進捗状況につきましては、現在、南関東防衛局の所管である周辺環境整備課と調整を行いながら、民生安定施設助成事業の補助事業等計画書を年度当初に提出し、計画通りにいけば設計の国の予算、市の予算、工事の国の予算、市の予算を合わせて令和10年度に工事を順調にいけばできるという進捗状況になっています。

また、地元の方の声については、先日、南関東防衛局と自治会長と一緒に現地を確認し、だいぶ古い施設という現状を見ながら補助金を使っていきたい、しっかりとした大規模改修を行っていきたいというご要望を受け取りました。

松本委員

スケジュールを確認させていただきましたが、積算の単価が上がり、補助率は高いですが、自治会の負担が増えることが懸念されますので、防衛省の方達にそういった声を聞いていただいて、また柔軟な対応ができればと思いますので、要望として申し上げたいと思います。

最後に、色々質問させていただきましたが、地域と防衛局が相互に理解をしながら、柔軟な予算措置を含めてぜひお願いしたいと思います。非常に我が国を守るという意味では大事な教育飛行隊でございますので、ぜひ訓練生に対してはしっかりとした安全教育を行っていただいて、安全な訓練を行っていただきたいと要望をしております。

会長（市長）

他にいかがでしょうか。

（質問・意見なし）

それではご意見・ご質問等がないようでございますので、本日予定しておりました、議事については終了といたします。

ご協力いただきましてありがとうございました。